

事例3： 岩手県立中央病院（岩手県）の取り組み

「HCU等新型コロナウイルス感染症患者専用病室入室時に病棟業務を協働し業務削減となった」

概要

- （状況）新型コロナウイルス感染症患者専用病室8床、12月23日時点の入院患者7人。
- （支援）27日間。延べ27人（1人／日）の理学療法士が業務支援実施（11月27日～）。
- （効果）毎日1患者につき10分の支援であれば、1週間で看護師約1日分の業務削減に相当。

コロナ対応病棟での主な支援

- ・ コロナ感染患者に対してのリハビリテーション提供：あり（※次ページ参照）
- ・ 入室時の症状・生体機能管理（記録）
 - 随時対応：
血圧等バイタル測定、呼吸音の確認とポジショニング、体重測定）
 - 必要時対応
（尿量のチェック、点滴等の残量チェック）
 - その他入室時の情報提供
- ・ 夜勤業務：なし

その他の病棟での支援

- ・ AMIリハ患者搬送の負担軽減：エアロバイクの循環器病棟への設置による運用
- ・ 夜勤業務：なし

病院プロフィール

- 病院の機能説明：
 - ・ 二次救急
- 全病床数：685床
（ER/ICU/HCU/SCU/一般）
コロナ専用病床：陰圧病床
 - ・ HCU＝6床（重症、中等症）
 - ・ 感染個室＝2床（軽症）
- 感染対策の教育：
 - ・ HCUでの事前勉強会（PPE装着など含む）

事例3における 「COVID-19」へのリハビリテーション適応基準

状態	適 応	除 外 対 象	主なりハビリテーションプログラム
無症状・ 軽症	入院前の生活機能が一部介助、もしくは不安定であった者	入院前の生活機能が全介助であり医師が不要と判断した者	筋カトレーニング指導(体操等) 必要に応じて歩行やADLの指導 ・リモート等を使用した指導 ・動画/パンフレットを使用した指導
中 等 症	基本的に全適応	入院前の生活機能が全介助であり医師が不要と判断した者	筋カトレーニング指導/実施 必要に応じて歩行やADLの指導/実施 気道クリアランス(排痰指導/トレーニング)
重 症	基本的に全適応	入院前の生活機能が全介助であり医師が不要と判断した者	気道クリアランス(ポジショニング/排痰) 自動/他動運動 離床プログラムの実施